

田植えと二番茶が終わり、梅雨の季節を迎えました。6/4 開港した富士山静岡空港離着陸平均搭乗率 70%前後の旅客機からは、たんぼが満々と水で満たされ水田となった景観が広がっていることでしょう。Positive 思考と行動で、元気にお過ごしでしょうか？

2004 年の今頃、榛原総合病院の「診療体制の縮小」「お産の受け付け不可」の状況。その後の「高齢者等の誤嚥や発熱、食欲低下などでの入院不可」と記された 救急医療放棄の通達。この頃が最悪の事態かと思いきや、2006 年 浜松医大から産婦人科の茂庭将彦院長そして心臓カテーテル検査まで遂行の循環器部隊を筆頭に何人かの医師が浜松医大から赴任。病院の建物も完成し、産婦人科の拠点、救急医療の基礎作りとして、良い方向に歯車が動き始めていた時期もあったようでした。しかしその後 脳外科医の引き上げからはじまり、榛南地区の医療 特に救急医療の後退に直結した浜医第三内科循環器専門医全員引き上げ休診から「閉鎖の危機」と、住民にとって大問題となっております。

一方で やはり「浜松医大の責任問題」があると県レベルの医療人は考えているようですが、我々地元人としては、大元の原因は 勝手・気ままな地方自治の住民に対する医療の「コンビニ化を助長する政策、そしてこれに乗せられてしまった住民」、そして 十分な行政との議論も無く起った「病院側の救急医療放棄」。問題はここにあったと考えます。

金銭的損切りが出来ないからと、本筋を是正する解決の場を持たずして、経営母体を換えても、二転三転しながら 280 億円の借金をさらに膨らますだけです。

せめて我が町人口 3 万人の吉田町、何より「保健医療会議の内容(裏面右下参照)」を含め、住民の生活を鑑みて医療の現場を直視して戴けないかと、町長 田村典彦氏に切に願います。

豚インフルエンザの感染が広がっております。5/22 志太・榛原救急センターでの 2 人の患者。簡易検査で A 型陽性が出た方、そしてハワイ留学から 5/19 成田に帰国の方「メキシコ・カナダ・アメリカ本土からの帰国で無ければ、指定医療機関へ搬送の必要無し」「咎め無し」との中部保健所職員の行政判断。愛知県で確認された第 1 号患者は 5/20 ハワイ旅行から帰国の方です。これでよかったのでしょうか？ 医療現場にいる私の実感では 感染者は報告の 10 倍以上と思われまます。行政の姿勢が定まらない中で、指示を待てども曖昧で、不合理・不条理の山積み。それでいて、事を仕損じ 誤りと判断されたら、後から兎や角言われる。現場の医療人は大変です。

本院の糖尿病の半年にわたる 6 回シリーズの勉強会が、7/4(土)「 糖尿病ってどんな病気」から再スタートします。糖尿病あるいは予備群とはじめて診断された方、家族・親族に糖尿病の人がみえる方、肥満を気にしている方、本院にはじめて来院された方、知識の再確認をと考えてる方、インスリンを含め薬物からの離脱を目指したい方、まずは「知ること」です。また、忙しい方の為に「糖尿病集中勉強会」を 7/18,25(土)午前で開催します。

Jリーグ ジュビロ磐田、ナビスコ杯予選を終えて、6/20 アウェイで王者鹿島アントラーズに挑みます。堪える時を経て“底から脱出”、上位との対戦で本領発揮を期待します。

遅くなりましたが、康寿診報 141 号 送らせて頂きます。

敬具

平成 21 年 6 月 17 日

加藤寿夫

ホームページが新しくなりました。

<http://www.katoiin.jp> ぜひご覧ください。

裏面 縮小コピー、上が 2007.10.15.一般新聞朝刊で配布
「『若返り貯筋参加者募集!』案内の折り込みチラシ」
左下は 静岡新聞 2008.12.27. p15 掲載 田村典彦氏の昨
年未職員への挨拶「事業見直しの好機に 吉田町長」
右下は 田村典彦町長の招集にて 2009.2.27.開催された
「保健医療会議に於いて医師団の求めた要旨」です。